

第6学年2組 国語科学習指導案

千葉市立幕張西小学校

指導者 釜井 悠

1 単元名 日本文化を考える 「6-2 俳句集を作ろう」

2 単元目標

○定型詩のリズムに親しみながら、身近な情景や場面を捉え、俳句を創作しようとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○書いた俳句を発表し、交流をして、表現の仕方に着目して助言することができる。(書く能力)

○さまざまな俳句を音読したり、自分の思いを俳句にしたりして、俳句の語調に親しみながら作者の思いを感じることができる。(言語についての知識・理解・技能)

3 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	○五七五のリズムに親しみながら身近な情景や場面を捉え、俳句を創作しようとしている。
書く能力	○表現の仕方に着目して、友だちの俳句のよいところを伝え、書き手の思いがより伝わりやすくするために、どのように書き換えればよいのかを具体的に助言している。〈書くこと(1)カ〉
言語についての 知識・理解・技能	○さまざまな俳句を音読したり、自分の思いを俳句にしたりして、俳句の語調に親しみながら作者の思いを感じている。〈(1)ア(ア)〉

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材について

本単元では、経験したことや想像したことをもとに俳句を作り、互いに読み合う言語活動を行う。これは、学習指導要領の「B 書くこと」における(2)言語活動例「ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること」を踏まえている。身近な情景や生活の中での出来事をとらえて、俳句の特徴を生かした創作を行うことによって言葉の調子やリズムに親しみ、凝縮した表現でとらえる面白さや楽しさを味わわせたい。創作することによって俳句の特徴を一層理解し、俳句作品をはじめとする伝統的な言語文化に積極的に親しもうとする態度を養うことが大きなねらいである。今回の学習では、その大きなねらいを実現し、自分の思いが伝わることや俳句の中から友だちの思いを読み取れる面白さや楽しさを味わわせるために、「B 書くこと」の(1)指導事項「カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと」を重点的に指導していく。

俳句は、経験したことや想像したこと、感じたことを「五七五」の十七音で表し、短い句の中に季語や効果的な技法を用い、心情や情景を表現していく。俳句は最も短い定型詩として知られ、季語が入るといった特徴がある。一句が短いことから、三十一音の短歌よりも書くことに親しみやすく

児童が創作に取り組みやすいことが考えられる。その反面、自分の思いを短い言葉でまとめるために、適切な言葉を選ぶ力や表現の工夫をする力が求められる。そこで、単元の学習に入る前から、日常生活の中や俳句の中から様々な言葉を探したり、単元中には、表現技法を確認したりする時間を多くとっていききたい。

また、本単元は年間を通し、帯単元として俳句の創作を行っていく。年間を通して、四季の「6－2俳句集」を作ることを児童に知らせることで、子どもたちの創作への意欲が高まり、俳句作品に親しもうとする機会も増えることが予想される。また、年間を通した創作を位置づけることにより、俳句のもう一つの特徴である季語を大切にしたり、その季節らしい身近な情景をとらえた俳句を四季それぞれで作ることができると思う。

本時では、前時に書いた互いの俳句を読み合い、表現の仕方に着目して、友だちの俳句のよいところを見つけ、伝え合う。そうすることで、自分一人では気付かなかった自分の作品のよさや友だちの作品のよさに気付くことができると思う。また、書き方や表現の方法で悩んでいる友だちには、より書き手の思いが伝わる俳句になるよう助言をし、推敲していく。「B書くこと」の(1)指導事項「カ 表現の仕方に着目して、助言し合う」を指導するためには、まず読み手が表現の仕方を理解し、友だちの作品から表現の工夫を読み取る力が必要であると考えた。また、作品のよさを伝え合い、互いに認め合うことから交流が始まると考え、本時では、「表現の仕方に着目して、友だちの俳句の良いところを伝え合えること」を目標に設定した。お互いの作品のよさを感じ、自分の思いが伝わることや友だちの思いを読み取れる面白さや楽しさを味わう場を多く設けていきたい。

(2) 本単元で身につけさせたい力

本単元では、経験したことや想像したことをもとに俳句を作り、互いに読みあう言語活動を通して、凝縮した表現でとらえる面白さや楽しさを味わわせ、俳句作品をはじめとする伝統的な言語文化に積極的に親しもうとする態度を養うことが大きなねらいである。そのため、本単元では、「B書くこと」の(1)指導事項「カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと」に関する知識や技能を活用できる能力を身につけさせようとしている。創作した俳句を読み合い、よさを伝え合ったり、表現の仕方に着目して助言し合ったりすることで、凝縮した表現の中でも自分の思いが伝わることを児童は実感する。自分の思いが伝わることや俳句の中から友だちの思いを読み取ることが俳句の面白さや楽しさにつながり、そのことが本単元の大きなねらいである俳句作品をはじめとする伝統的な言語文化に積極的に親しもうとする態度を養うことにつながると想定している。

大きなねらいを達成するために、第一次では、俳句創作に必要な表現技法を見つけ、「心に響く言葉や工夫された表現に気付く力」を身につけさせたい。そのため、教師が用意した見本の中から比喩や倒置などの表現技法を見つけ、「俳句創作ファイル」にまとめていく。また、事前から行っている俳句の本の並行読書や俳句の音読から俳句の美しいリズムや響きに親しみ、様々な表現方法を見つけさせていく。

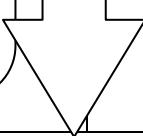
第二次では、第一次で学習した表現技法を使って、「自分の思いを効果的に表した俳句を創作する力」と「書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う力」を身につけさせることをねらう。第二次の前半では、「俳句創作ファイル」を確認しながら、表現技法を効果的に使って俳句の創作をしていく。俳句創作の練習として、「運動会」というテーマを設定したり、「うれしかった

こと」という共通のテーマをもとに書き手の思いに重点を置いたりして、創作の練習を行う。俳句のテーマや表したい感情を指定することで、何を書こうかわからず手が止まってしまう児童への支援になると考えた。

また、第二次の後半では、出来上がった俳句を友だち同士で読み合い、作品のよさを伝え合う。表現方法で悩んでいる友だちには、より書き手の思いが伝わるにはどうしたらよいのかに重点を置いて、俳句の表現技法、言葉のリズムや組み合わせなどに着目して助言をし、推敲していく。また、俳句創作を終えたことで満足してしまい、自分の書いたものをよりよいものにしようという意欲をもって推敲ができない児童の反応も考えられる。そこで、学習の最後に毎回「句会」を設定した。句会とは、無記名でクラス全員の作品を発表し合い、「6-2俳句賞」を決めるものである。句会を設けることにより、児童の俳句創作や推敲への意欲も持続できるだけでなく、友だちの作った多くの作品に触れ、表現の工夫や多様なものの見方、それぞれの作品のよさや俳句の面白さ、楽しさを実感できる機会が増えると想定している。

今回の単元を通して、俳句の響きやリズムを感じ、短い言葉の中でも自分の思いが伝わることや俳句の中から友だちの思いを読み取れる面白さや楽しさを味わわせていきたい。そして、俳句作品をはじめとする伝統的な言語文化に積極的に親しもうとする態度を育成したい。

5 指導計画（総時数 11時間）

次	時	学習活動と内容	指導や支援の手立て ◇評価
事前		<ul style="list-style-type: none"> ○俳句の音読をして、俳句に親しむ。 ○日記や学校行事のある時に、自分の思いを「今日の一句」として書く。 ○教室にある俳句の本を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のスピーチの中で、よいと思った句とその句を選んだ理由を発表させる。 ・自分の思いや発見が表れるできごとを選ぶよう助言する。
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「6-2俳句集」を作る計画を立てる。 ○教師が提示した作品から自分のお気に入りを見つける。 ○俳句の表現の工夫と創作のポイントを知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムや言葉の組み合わせがいい ・季節を感じられる ・様子や気持ちが浮かぶ ・表現や見方が面白い ・共感できる ・直接表現がない </div>	<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>季語集め ・俳句の本の 並行読書</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表をもとに、単元の流れをとらえさせる。 ◇俳句創作に興味を持ち、進んで学習に参加しようとしている。(関・意・態) ・お気に入りの理由が俳句創作のポイントにつながるようにする。 ◇進んで俳句を音読したり、自分の選んだ俳句のお気に入りの理由を見つけようとしたりしている。(関・意・態)

	2	○教師が提示した俳句の中から優れた表現技法を見つける。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 比喩 倒置 擬人 体言止め 対比 せりふ オノマトペ 数字 </div>	・技法のみではなく、その技法を使った句の印象や効果についても考えさせる。 ◇比喩や倒置などの効果的な技法や表現の工夫に気付いている。(書)
第二次	3 . 4	○共通のテーマ「運動会」から俳句を作る。 ○できあがった俳句を友だちと話し合い、推敲する。 ○推敲した俳句で句会を行う。	◇「俳句創作ファイル」を見たり、「俳句創作のポイント」を振り返ったりしながら俳句を書いている。(書) ◇友だちの作品を読んで、よいところを見つけたり、書き手の表現の仕方をよりよくする助言をしたりしている。(書)
	5	○共通のテーマ「うれしかったこと」から俳句を作る。 ○できあがった俳句を友だちと話し合い、推敲する。 ○推敲した俳句で句会を行う。	・「6-2季語集」をもとに、書くテーマを決めるよう助言する。 ◇「俳句創作ファイル」を見たり、俳句創作のポイントを振り返ったりしながら俳句を書いている。(書) ◇友だちの作品を読んで、よいところを見つけたり、書き手の表現の仕方をよりよくする助言をしたりしている。(書)
	6	○「6-2俳句集」の「夏」の俳句をつくる。 ○作品のアピールポイント、俳句に込めた作者の思い、助言がほしいところを書く。	・「6-2季語集」をもとに、書くテーマを決めるよう助言する。 ◇「俳句創作ファイル」を見たり、俳句創作のポイントを振り返ったりしながら俳句を書いている。(書)
	7 (本時)	○前時につくった俳句を友だちと助言し合って、推敲する。	・より作者の思いが伝わりやすくなるように、表現技法や言葉を選ぶことを伝える。 ◇友だちの作品を読んで、よいところを見つけたり、書き手の表現の仕方をよりよくする助言をしたりしている。(書)
	8	○推敲した俳句で句会を行う。 ○「夏」の俳句集を作る。	◇句会で、自分が選んだ俳句のお気に入りの理由を伝えようとしている。(関・意・態) ◇俳句を音読して、俳句の語調に親しみながら作者の思いを感じている。(言語)

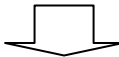
9 10 11	<p>○各季節に「秋」「冬」「春」の俳句集を作る。</p> <p>○俳句の創作と推敲をし、句会を行い、俳句集をつくる。</p>	<p>・「6-2季語集」をもとに書くことを伝える。</p> <p>◇季節ごとの身近な情景や場面を捉え、俳句を創作しようとしている。(関・意・態)</p>
---------------	---	--

8 本時の指導 (7 / 11)

(1) 目標

表現の仕方に着目して、友だちの俳句のよいところを伝え合うことができる。 (書くこと)

(2) 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (◇)	資料・教具
<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○自分一人では気付かなかった作品のよさの発見につながるよう、表現の仕方に着目して、よさを伝えるように知らせる。</p>	<p>「学習計画表」</p> <p>「本時の流れ」</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">友だちの作品のよいところを伝え合おう。</div>		
<p>2 交流の流れと観点を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の俳句を二回読む。 ・アピールポイント、作者の思い、助言がほしいところを話す。 <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のよいところ、助言を伝える。 </div>	<p>○「俳句創作のポイント」が、そのまま助言する際の観点になることを伝える。</p> <p>○「様子が浮かびやすい」とは、どのような様子が浮かんだのか、など友だちの作品のよいところは具体的に伝えるように知らせる。</p>	<p>「表現技法の表」</p> <p>「俳句創作の観点表」</p> <p>ワークシート</p>
<p>3 班ごとに交流をして、作品の助言をする。(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇くんの『夜空に花さく』という表現がきれいな花火の光る様子を上手に表せていて、いいなと思いました。」 ・「夏の暑さがつらいという気持ちを表すのに困っているなら、比喩を使ってみたらどうかな。」 	<p>○助言するときには、作者の思いが伝わりやすくなるように、「6の2季語集」や「俳句創作ファイル」、見本の俳句からも言葉を選ぶよう助言する。</p> <p>◇友だちの俳句のよさを伝え合っている。</p> <p>○友だちの作品のよいところが見つからない児童には、「俳句創作の観点表」を参考にするよう支援する。</p>	
<p>4 推敲して、短冊に清書する。</p>	<p>○句会に向けて、無記名で行うよう伝える。</p>	
<p>5 学習を振り返り、直した内容と交流をしてどう思ったかを発表する。(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花火がきれいに光っている様子の表現がうまいと言われて驚きました。」 ・「〇〇さんに助言をもらって、夏の暑さがつらい気持ちを比喩表現で表せそうです。」 	<p>○どのように俳句を推敲していったのか、活動を振り返るよう助言する。</p> <p>○作品のよさを知らされることが推敲に役立ち、さらにより作品づくりにつながることを確認する。</p>	
<p>6 次時の予告をする。</p>	<p>○次時は、本時に作った短冊をもとに、句会をしていくことを伝える。</p>	

